

天文同好會觀測部月報

觀測部流星課報告 Report, Meteor Section (22)

課長 小 槇 孝 二 郎

六月中の觀測者及觀測數は次表の通りである。 Summary for June, 1930

觀測者 Observer	略符 Abbr.	觀測地 Locality	時間數 Duration	個數 No.	觀測者 Observer	略符 Abbr.	觀測地 Locality	時間數 Duration	個數 No.
宮澤 堂	(Mz)	花山天文臺	290m	33	鹽見 幸三	(Si)	丹波福知山	587	297
古畑 正秋	(Hu)	長野縣岡谷	270	8	荒木 健兒	(Ar)	岡山縣玉島	70	6
豐田 博吉	(To)	東京府矢口	645	55	山榊 晴次郎	(Ys)	鳥取縣倉吉	210	0
長谷 秋男	(Ng)	廣 島 市	270	24	新田 見文雄	(Ni)	新 潟 市	180	4
佐藤 米 茂	(Sa)	島根縣濱田	340	12	松本 某	(Ma)	尾 道 市	90	2
田中 鐵馬	(Ta)	福岡縣箱崎	635	8	篠崎 長之	(Sz)	高 知 市	50	1
小槇 孝二郎	(Ko)	紀伊金屋	188	16	山崎 幸夫	(Ya)	大阪府龍華	10	1
木邊 成磨	(Ki)	滋賀縣中里	60	5	大橋 登潮	(Oh)	廣 島 市	120	6
總觀測時數 Total duration, 4015m				總觀測個數 Total No.				478	

此外に福知山の佐々木一二氏 (Ss) より火球を1個報告された。

× × × × ×

本月から稀代の鋭眼鹽見氏が流星課のメンバーとして活躍さるゝことゝなつたのを大いに喜ぶ次第である。微光流星をもやすやすと獲へられ優秀な輻射點を多數求められてゐる。

1. 觀測の概略 (Daily summary of observations).

日 付 Date	觀測者 Obs.	觀測開始 Begins	觀測終了 Ends	觀測時數 Duration	觀測數 No.	雲量 Cloud	清澄度 Seeing	其 他 Remark
3日	Mz.	1h 34m	3h 5m	91m	9		A	
〃	Hu	21 30	23 10	100	5	0	A	
4	To	2 2	3 2	60	4		A	
5	Hu	21 30	22 30	60	2	少	A	S=1
6	Ng	20 35	21 25	50	10	0	A	S=4+
〃	Sa	20 35	21 30	55	0	0	C	
〃	Ta	22 15	23 15	60	0	4	B	
7	Ko	2 15	3 10	55	5	5	B	

8	Ta	0 0	2 0	120	1	8	B	
〃	〃	22 40	24 0	80	1	1	B→A	
9	Ki	20 20	21 20	60	5			
〃	Sh	20 10	21 50	100	0	2	A	
〃	Ar	22 5	23 15	70	6	4	C	
〃	Hu	21 40	22 40	60	0	5	C	
〃	〃	23 10	23 40	30	1	5	C	
〃	Ym	20 0	23 30	210	0		C	
〃	Ni*	20 0	23 0	180	4	0	A	
〃	Ta	20 45	22 0	75	0	0	A	
〃	Sa	20 20	21 30	70	0	5	C	
〃	Ng	20 30	22 30	120	7	3	B	S=6
10	Sh	20 25	21 45	80	2	1	A	α-Bootid=2
〃	Ma	21 0	22 30	90	2			S=1
〃	Sa	20 25	22 0	95	0	3	C	
〃	To	20 50	22 20	90	6	$\frac{1}{2}$	B	S=1
〃	Ng	21 0	22 0	60	5	4	B	S=2
11	Sh	20 10	21 40	90	14	4	B	α-Bootid=8
12	〃	20 20	21 25	65	22	3	A	S=2 S=5
〃	Mz	20 42	21 30	48	4	増減		
〃	Hu	22 5	22 25	20	0	0		
〃	Sz	20 35	21 25	50	1	0	A	
〃	Ya	22 30	22 40	10	1			
〃	Ta	20 40	21 40	60	0	0	A	
〃	Oh	21 5	22 5	60	2	0	A	
〃	To	20 15	22 0	115	5	0	B+	S=1
13	Sh	20 50	21 30	40	31	2	A	
〃	Mz	20 35	21 30	68	9	増減		
〃	Ko	20 46	21 9	33	3	1	A	
〃	To	20 18	22 18	120	7	6	—	
16	Ko	22 9	22 29	20	2	2.5	A	時間外1個
〃	Oh	21 15	22 15	60	4		A	
〃	Sh	20 30	21 20	50	47	3	A	
17	Mz	23 5	24 5	60	7	増減		
〃	Ta	22 0	23 0	60	1	0	B	
〃	To	20 15	22 10	115	16	1	A	S=1
〃	Sh	20 35	20 47	12	13	5	C+	
18	To	21 20	22 20	60	9	—	B	
19	Mz	21 35	21 55	20	4	増減		

〃	〃	23 7	23 10	3 f				
〃	Sh	20 20	21 10	50	65	2	A	
22	Ta	0 0	1 0	60	1	7	A	
23	〃	22 5	22 5	60	1	0	B	
24	Ko	2 45	3 25	40	5	0	A	
25	Sh	20 25	21 30	65	61	2	A	
29	Ko	21 15	21 55	40	1	1	A	時間外1個
30	Sa	21 0	23 0	120	12	0	B	
〃	Ng	21 50	22 30	40	2	5	B	
〃	Ta	22 40	23 40	60	3	0	A	
〃	To	21 0	22 25	85	8	0	A	
〃	Sh	20 25	20 55	30	36	2	A	
〃	〃	21 0	21 5	5	6	2	A	

* 横田, 細野, 久保田三氏と共同

2 六月中に観測されたる大流星 (Bright meteors observed in June, 1930).

日付 Date	観測者 Obs.	出現時刻 Time (J. C. T.)	確度 Wt.	繼續時間 Duration	光度 Magn.	速度 Velocity	色及其他 Colour &c	出現點 Appearance		消滅點 Disappear		流星群 Swarm
								α	δ	α	δ	
4	(To)	2h 2m	4	1.88	-3	m	BW痕(1S.0)	310	+ 16.5	288	+ 11	
8	(Ta)	0 17	3	1.5	-2	rS	w	289	- 15	303	- 30	
〃	(〃)	23 43	3	2.0	-1	S	w→Yw	311	+ 13.5	320	- 9	
9	(Ki)	20 50	5	1.2	-1	S	Y.B	235	+ 19	220	+ 23	
〃	(Ar)	22 29	2	1.2	-1	rR	YR痕 (0.8)	245	+ 27.5	260	+ 28.5	
12	(To)	21 13?	3	0.8	-3	S	wR	248	+ 12	257.5	+ 11.5	
〃	(Ya)	22 35	4	0.8	-1	rS	R→Y痕(2.S)	176	+ 14	166	+ 19	同一 流星
〃	(Ko)	22 35	1	1.5	-2	vS	Orange火粉	166	+ 34	149	+ 40	
13	(Ss)	21 3	—	3?	Venus ×3	S	Leoニテ分 裂2個トナル	204	+ 2	149	+ 27	同一 流星?
〃	(Mz)	21 4	2	3.0	-2	vS	R	152	+ 15.5	140	+ 24	
17	(〃)	23 52	3	0.8	-2	S	R	354	+ 44.5	11	+ 51	
19	(〃)	23 7	4	0.5	-1	rS	w	237.5	+ 83	165	+ 79.5	

本月12日, (Ko) 及 (Ya) の間に認められたる小火球は (Ko) の観測確度が良好でなかつたが, とも角計算をすゝめて見ると輻射點は $\alpha=216^\circ \delta=5^\circ$ 附近で, 岡山縣南部を西南から東北に地上約100杆のところをとんだらしいことわかつたので, 同縣下の荒木氏に調査を依頼した. しかしこれは何等の効果もなく, これ以上の研究は不可能となつた.

13日の (Ss) (Mz) 二氏觀測の大流星も恐らく同一流星と思はれるが方向の觀測が可成誤りある様なので結果が甚だしい不確にをち入る爲推定をひかへてゐる。

3 流星群の出現狀況 (Notes on apparitions of swarms.)

I. シヴスマンワクマン彗星 (Schwassmann-Wachmann's Comet) に伴ふ流星群 (Meteoric shower connected with S.-W. Comet, 1930d)

この流星群の觀測については 中村要氏の優秀なる觀測結果が天界 8 月號 (No. 112, Vol. X, P367—373) に載せられてあるので、に再びのべる必要はない。微光の流星群であつた爲め流星課の他のメンバー中これを認めたものは殆んど無いと云つてよい位である。しかし幸にも廣島市の長谷氏が 6 日及 9 日に、福知山町の鹽見氏が 12 日に數個の同流星群を認められ、各一個づゝ輻射點を得られたことは 中村氏の結果を裏付けする點に於て意味があらう。其の他のものは云ふに足りないものであつた。

II. 牧夫座 ϵ 流星群 (ϵ -Bootid)

上旬に宮澤氏發見の牧夫座流星群が數個ある様であるが殆んど言ふに足りない。16日に鹽見氏はこの附近に可成顯著な一流星群を見られてゐるが、同一の群と見ることは時日の關係上全然出来ない事である。

III. 牧夫座 α 流星群 (α -Bootid)

11日及17日に鹽見氏は牧夫座 α 星附近に流星群を見られてゐる。一般に牧夫座のこの附近に多くの輻射點の存することが、鹽見氏のものから認められるのであるが、これ等の輻射點を有する數多の流星群の間には何等かの關係があることを豫想される。總じて微光のもので 4 等以上のものは殆んどない。

IV. 下旬の β ネケ流星群 (Pons-Winnecke's meteors)

全く鹽見氏の一人舞臺である。微光の爲に他の觀測者は見られてゐない。輻射點は可なり廣い面積を有し居り、輻射點も數個ある。

V. 其他の流星群

この他に著しい出現を示した流星群はない。

4 觀測より誘導されたる輻射點 (Radiant points derived from observations.)

番號 Curr No.	日付 Date	Time (J. C. T.)	輻射點 Radiant Pt.		個數 No.	觀測者 Obs.	備考 Remarks
			R. A.	Decl			
230	6月 6日	20 ^h 35 ^m —21 ^h 25 ^m	247	+ 39	5	(Ng)	η—Herculid
231	〃	20 56	241	+ 26	1	〃	(S.M)
232	9	22 7	223	+ 28	1	(Ar)	(S.M) 不確
233	〃	22 49.5	275	+ 35.5	1	〃	(S.M) 〃
234	11	20 10—21 40	217	+ 24	8	(Sh)	α—I ootid
235	{ 12 13	20 20—21 25 20 50—21 30	237.5	+ 41	$\frac{3}{2}$ } 5	〃	1930d
236	〃	〃	212.5	+ 31.5	$\frac{4}{6}$ } 10	〃	
237	〃	〃	223	+ 36	$\frac{5}{6}$ } 11	〃	
238	〃	〃	215	+ 24.5	$\frac{1}{4}$ } 5	〃	
239	〃	〃	207.5	+ 17.5	$\frac{1}{3}$ } 4	〃	
240	16	20 30—21 20	209	+ 25	7	〃	
241	〃	〃	220	+ 27.5	9	〃	ε—Bootid
242	〃	〃	225	+ 32	8	〃	
243	17 18	20 15—22 10 21 20—22 20	252.5	+ 24.5	$\frac{3}{2}$ } 5	(To)	
244	17	21 20—22 20	214	+ 19.5	10	Sh	α—Bootid
245	19	20 20—21 10	216	+ 21	16	〃	
246	〃	〃	212	+ 19	14	〃	
247	〃	〃	196	+ 19	5	〃	poor
248	25	20 25—21 30	205	+ 47	18	〃	} Winnecke's Comet } Meteors
249	〃	〃	214	+ 51	5	〃	
250	〃	〃	202	+ 48	6	〃	
251	〃	〃	227	+ 59	8	〃	
252	30	20 25—20 55	230	+ 66	6	〃	(—Draconids) 〃
253	30	〃	244	+ 60	3	〃	poor
254	〃	〃	270	+ 55	4	〃	〃

S. M.=停止流星

彗 星 課

テムベル第二彗星発見？ 近着の大英天文協會サーキユラーによれば南阿ユニオン天文台長ウド H. E. Wood 氏は去る8月26日、赤經 $15^h 21^m$ 赤緯 $-11^\circ 59'$ の所に彗星らしいものを撮影された由。これは今年出現の筈の第二テルベル週期彗星の推算位置 (B.A.A.年鑑所載) に大變近いので、それだろうと思はれる。光度は12等級と報告されてゐる。

本年の彗星界レヴィウ

発見符號	発見者	発見日	近日點通過	摘 要	最近の觀測
1930 a	ペルテアー	2月19日	1月15日54		3月3日
1930 b	バイエル	3 11	4 18.2945		6 28
1930 c	キルク	3 22	3 28.800	週期466年	6 21
1930 d	シヅスマン	5 2	6 14.220	週期5年267	8 24
1930 e	フオプス	6 2	5 10.453		7 1
1930 f	ウド	8 26	10 5.	「第二テムベル」	9 22

隕石落下に注意ませう !!

夕食後家族一同茶の間で雑談してゐる時とか、静夜書齋で讀書してゐる時とかに、子供がいたづらに投石したかの如く、突然戸袋や庇を猛烈に打つ音におどろかされることがあります。その音たるや何か飛來物に相異なく、もし硝子窓にでも當れば一度にくだけてしまひさうなすごいものです。誰しも不注意にすごしてゐますが、これは確に隕石だらうと思ひます。無論晝間にもある筈ですが、不在や騒音等のため聞取りにくいのでせう。

隕石は地上に落下した時も尙熱を持つてゐることがありますから、この恐い音を聞くや直ちにかけて注意深く搜索すれば確に手に入るでせう。私は隕石を未だ一度も見たことがありませんが、何かの機會に實物をよく觀察しておくことは、かかる搜索にも非常に都合がいいことと思ひます。

私達の一層の注意により、同好會で毎年少くとも10個位の隕石を手に入れたいものです。(荒木)